

各 位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2025年05月分)

ご協力ありがとうございました。2025年5月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143 回答 136 回答率 95.1%

調査項目	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上昇・好況	やや 増加・上昇・好況	横這い・平常	やや 減少・下降・不況	10%以上 減少・下降・不況	
売上数量	3社	12社	47社	40社	34社	136社
	2.2%	8.8%	34.6%	29.4%	25.0%	
	(7.7)	(10.0)	(33.8)	(26.9)	(21.5)	
売上高	4社	14社	38社	43社	37社	136社
	2.9%	10.3%	27.9%	31.6%	27.2%	
	(8.5)	(10.1)	(28.7)	(27.9)	(24.8)	
在庫数量	6社	20社	62社	28社	15社	131社
	4.6%	15.3%	47.3%	21.4%	11.5%	
	(4.1)	(15.4)	(43.9)	(22.0)	(14.6)	
販売単価	4社	11社	65社	47社	7社	134社
	3.0%	8.2%	48.5%	35.1%	5.2%	
	(3.1)	(11.7)	(47.7)	(32.8)	(4.7)	
収益状況 (粗利)	6社	10社	46社	55社	19社	136社
	4.4%	7.4%	33.8%	40.4%	14.0%	
	(6.3)	(14.8)	(33.6)	(32.0)	(13.3)	
稼働率 (生産・加工設備)	2社	7社	53社	40社	13社	115社
	1.7%	6.1%	46.1%	34.8%	11.3%	
	(2.7)	(9.9)	(40.5)	(34.2)	(12.6)	
入出庫の トラック台数	0社	5社	59社	49社	18社	131社
	0.0%	3.8%	45.0%	37.4%	13.7%	
	(0.8)	(8.0)	(44.8)	(35.2)	(11.2)	
現在の 景況感	0社	3社	44社	51社	35社	133社
	0.0%	2.3%	33.1%	38.3%	26.3%	
	(0.0)	(3.9)	(40.6)	(32.0)	(23.4)	
3ヶ月後の 景況予測	0社	7社	83社	33社	9社	132社
	0.0%	5.3%	62.9%	25.0%	6.8%	
	(0.0)	(3.9)	(64.1)	(25.8)	(6.3)	
特記事項						

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②()内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
事務局 TEL : 047-350-5311 FAX : 047-350-5316

景況実感調査(2025年5月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

【お断り】寄せられたコメントは、各社担当者の現場の声です。個々の会社固有の状況にもとづくものも多々あります。業界全体及び浦安鉄鋼団地全体の見解とは必ずしも一致しませんので、お含み置き願います。また、不穏当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 5月の販売量は最近1～2年間で最悪の販売量になった。需要の低迷は全く底が見えず、市況も安価な輸入材に引っ張られ下落の一途。粗利が月を追うごとに悪化している。
- ② 先月以上に店売りの引合いが減った。建材関連は、特に荷動きが良くない状況。
- ③ 大型物件や公共物件など継続している物件が多いので、出荷量は維持できている。ただ、新規が少なく、そのため中小物件では価格競争が厳しくなっている。
- ④ 不況の一言に尽きる。経常的な注文、加工が好調と勘違いする程。小ロットはどこまで小さくなってしまうのか。
- ⑤ 5月の業績は、前年同月比でほぼ横ばいとなった。依然として回復基調には至っておらず厳しい状況が続いている。また、足元では米国における関税の動向が注目されており、これに関連して一部自動車メーカーの北米移管に関する話題も聞かれるようになり、今後の需要動向については一層の不透明感が増してきた。

中板

- ① 中板は需要に回復の兆しは見られず、引き続き低調で推移。店売りは相変わらず小口当用買いに徹している。市況は電炉メーカーによる値下げの影響と受注確保の焦り売りもあり、ジリ安の傾向が続いている。

厚板

- ① <全体感>引き続き需要動向に変化なく、どの分野においても低位横ばい。紐付分野では特に輸出向けの不透明感が強まる中で、生産計画も見直しが行われており、今暫くは慎重な姿勢での様子見となりそう。店売分野においても切板需要の減少に伴い荷動きは悪い。
<分野別>建産機分野においては海外での販売で変動が大きく、加えてアメリカの関税問題の影響や為替の変動などで、下期に向けて回復から横這いの見方が強まっている。これら要因の動向によって生産計画も変動すると思われる。店売分野においても上記の通り、荷動きは低調、SPOT的な不足材料の引合いが散見されるが、大きな物量の荷動きは少ないと思われる。
- ② 建設機械は、減産傾向であったが、下期に向け更なる下振れが予想され、一層の落ち込みが心配される。店売関連は、鋼材の高騰、人手不足の影響で売上も非常に減少している。
- ③ 橋梁免震については前月と同様に低位横這いが続いている。店売りにについても荷動きは低いままで推移している。

一般形鋼・H形鋼

- ① 需要低迷で市況は弱基調。需要は少ないながらも土木関連は横這い。現状価格を維持するのが厳しくなっているが、ここが正念場。採算の合った商売を心掛けていく。
- ② 海外情勢含めマーケットの雰囲気は良くない。しかし、円高進行で調整局面かと思われたスクラップ価格だが、為替は小刻みな上下を繰り返し大きな変動なし。メーカー生産量が大きく落ち込み、かつ原料高止まりで下げ余力は一切なしの状況。先行きの不安から出し渋りは少なからずあるが実際はそこまで悪くない。短納期の問合せが多く、市中材活用という流れが下支えになっており、市中ニーズは増加していると認識している。
- ③ 連休明け後の引合い無風状態は酷かった。5月中盤より売上は回復するも、前月比、前年同月比とも2割強の売上高減となった。6月も同様であればトランプ政策の所為ではないか。
- ④ 再開発案件はあるが延びてしまっている。元請の職人が不足していて、新しい物件に手を出せない。

異形棒鋼

- ① 世の中インフレで、あらゆる物・サービスの価格が上昇しているが、鋼材市況は弱含み。今後、適正な価格転嫁を進めていかないと状況は更に厳しくなる。
- ② 売上高、売上数量の減少が続いており、このままだと赤字経営になる。販売価格の維持こそが生き残る道である。
- ③ 良かった4月に対し、5月の動きは落ちた。6月も同様の動きとなっている。

平鋼

- ① GW 明け更に荷動き、引取台数、引合いが悪化。価格はどうにか維持しているが、条鋼品種は弱い為、やや下落傾向。
- ② 5月も非常に悪い結果となった。4月の前半までは在庫分の受注や加工品の受注が比較的あったが、後半に入り急ブレーキが掛ったかのように止まり、5月もその流れのままで推移した状態。出口の见えないトンネルに入ったように思える。

軽量形鋼

- ① 生産量・受注量共に横這い傾向。当面横這い継続と推測される。
- ② かなりの低調な状況。しばらく続くことが予想されるので、過度な反応をしないように努めていく。

鋼管

- ① 例年悪い5月の中でも特に悪く、しばらくこの状況が続くと思われる。

構造用鋼

- ① 需要については、自動車関連で中国での販売不振や、大規模なリストラ予定、米国の関税の影響等でさえない状況。建機は一部回復基調も、盛り上がりは欠く。荷動きは総じて低調。在庫は出荷見合いの適正。価格は一部メーカー値下げの影響により安値も散見されるが、大勢は各種コストの上昇が続いているため、価格維持に注力。

その他

＜スクラップ＞

- ① 稼働日自体が少ない5月だったが、荷動きは日を迫うごとに悪くなっていく印象。国内メーカーはもちろん、世界的にもスクラップの購買意欲は乏しく、相場は下落。スクラップ発生量も減少。荷動き回復の起爆要因もなし。

＜金属表面処理＞

- ① 5月は4月と同様にスポットの扱い量が低調となったが、紐付き、物件物（プラント）は計画通りであったため、何とか売上はキープ。引合いも先納期ではあるが物量が多い案件もあり期待する。6月も紐付きをベースに同様の操業となりそうである。

＜魔棒鋼＞

- ① 自動車向け紐付品は相変わらずの調整局面。5月は連休中の休業も重なり、数量はミニマム。先行きも回復の兆しなく、逆に更なる減少も予測される。店売り品は底を打った感もあるが、勢いを欠く状況。